

# 日本復興の鍵 「受け身力」

拓殖大学国際学部教授 呉善花

- \*親日派はイコール売国奴
- \*「日本人」がブランド品に
- \*Sがつく物が受ける
- \*吹き込まれる魂
- \*日本人は「異常な」人たち？
- \*まるで違うご飯の食べ方
- \*どんな生き方が美しいか
- \*「八方美人」は褒め言葉
- \*なぜ品があると思うのか
- \*三つの世界がある国・日本



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は呉善花先生にお出でいただきました。私個人は比較文化論がいちばん興味のあるところで、違った文化を比べていく中で、相手を知り、己を知ることは非常に大事だと思っております。しかし、実際にはつい比較しないで論じてしまうことが多いのではないかと、日韓の関係もそういう意味では比較文化の中で考えていくことが重要だとかねて思っておりましたら、呉先生がそういうお話をロータリーの会合でされてとても面白く伺ったのです。

呉 善花 呉さんは韓国で学ばれた後、日本へ来られて、韓国で育った年月と日本へ来られてからの年月については、あまり比べないほうがいいのかもしれないですね。（笑）しかし特徴的なことは、な

ぜか韓国に厳しく、日本に対しては過分に評価してくださっているのです。（笑）今日は気分よくお話を聞いていただけるはずですよ。

それと、たいへんすばらしいユーモアの才能をお持ちでして、今日は眠られる方はゼロだろうと思います。それでは呉さん、よろしくお願いたします。（拍手）

呉 皆さんこんにちは。私は来日して7月10日に来日29年となりました。最初の印象は、「なんと日本は蒸し暑いのか」ということでした。（笑）この時期になりますと、いつもその頃のことを思い出します。

29年といえば、日本で生まれて日本で育っていたならば立派な大人でしょうけれども、いくつのときに来日したかにつきましては、最近言